

研究主題 素材とふれあい，創る喜びを味わわせる 選択教科「美術」の指導

1 はじめに

選択教科としての美術の時間では，必修としての美術の学習で培われた基礎的・基本的な知識・技能が効果的に生かされることによって，初めて生徒一人一人の個性や興味・関心を高めることが可能となる。また，必修としての美術の学習内容を一層発展させ，生徒の興味・関心のある内容について継続的・計画的に追求させる時間である。（中学校美術指導資料「指導計画の作成と学習指導の工夫」文部省）

ここでは，上記の考え方とねらいをふまえて，「身近な素材とのふれあいから生まれる創造活動の喜びを味わわせる選択美術の指導」という研究主題を設定して実践した。

2 研究のねらい

身近な素材や新鮮な素材とふれ合い，特性を感じることでより表現の可能性に気づき自由に創る喜びや楽しさについて究明する。

3 ねらいにせまるための手だて

- (1) 身近な素材の造形性，表現の可能性を追及し，創意工夫させることにより，発展的な取り組みを実践した。
- (2) 新しい題材や素材を取り上げ，自由制作の中で応用発展させることにより，意欲的な取り組みの実践を試みた。

4 研究の実践

(1) 実践例〈2年生〉 「アルミ缶によるオブジェ制作」

2月の選択教科の内容説明会では，「石膏による型抜き制作」から授業が開始される計画であった。

しかし，生徒会を中心に全校あげて環境フォーラムの一貫としてアルミ缶と古紙の回収活動が行われることになった。そこで，アルミ缶をつぶして再利用するだけでなく，「素材として利用してみよう。」という発想と話し合いからこの題材は出発したものである。

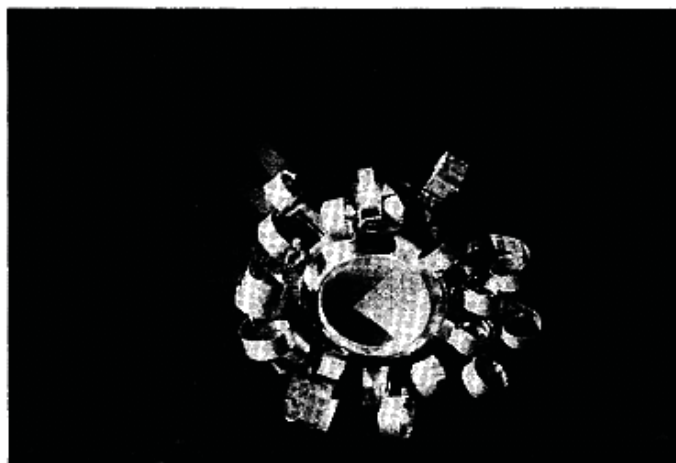
次の時間には大小様々なアルミ缶が集められてきた。手で触れたり，つぶしたり，ハサミやカッターで切ってみたりしながら構想が形になってきてラ

美 術

フスケッチに入った。中には、スケッチとは全く異なる形になっていく生徒もいた。テーマ内容、技法等はすべて自由選択として進めた。必修授業の形態からの切換えの意識化や自主的制作態度を喚起することにもなった。また、目の前にある「素材」をどのように「造形」するかという課題を解決しようとする態度を養うこともねらいとしてあげた。

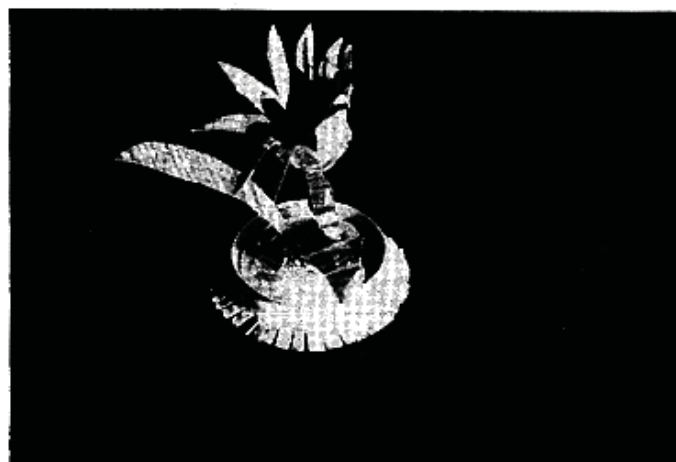
3時間取扱いとして、意欲や素材とのふれあいの新鮮さを持続できるように計画した。

2年生になって選択教科の「美術」の学習に初めて出会うこの段階は、これまでの体験を生かし、意欲と自主的取り組みの必要性を再確認するために大切な時である。また、次の本制作に入る導入部とするためにも有効であった。



[切断と折り曲げを工夫した作品]

- ・ 素材の特性を生かし、光に輝く花びらを表現した。根気よく丹念に切断して一枚ずつ曲げていった。それを少しずつ変化をつけたり、缶の底部を上手く利用した所に作者の工夫が感じられる。



[接着剤を効果的に使用した作品]

- ・ それぞれの部分ごとに制作していき、接着したものである。

台座となる缶の上部のプルを利用したり、茎の部分を曲げるなど細部にわたりなかなか工夫されている。発見と工夫を大いに楽しめる時間であった。